

## 職員のアイデアが 施設連絡会活性化の 原動力

柏原市民間社会福祉施設連絡会(地域貢献委員会)(以下、連絡会)は、市内にあるすべての社会福祉法人の福祉施設(16施設)が加盟しており、設立から5年目を迎えました。



連絡会の街頭募金活動の様子

これまで、連絡会の活動として「実務担当者会議」で議論されていることが特色です。この担当者会議は概ね隔月で開かれており、事務局を担う社協も含め、高齢、障がい、児童養護、保育といった種別を超えた、顔の見える関係づくりにもつながっており、連絡会の活性化の原動力となっています。

## 丁寧な 相談支援を施設で

連絡会のここ数年の活動の中

# 地域・時代のニーズに 応える地域貢献委員会

## 柏原市民間施設連絡会(地域貢献委員会)

市町村単位の地域貢献委員会(施設連絡会)を設置促進し始めてから十数年が経過します。しかし「設置するだけでなく、活性化が課題」といった声もあがっています。そこで、今号では、設置以降の運営に着目し、実践を開発するプロセスを紐解くことで、地域貢献委員会の今日的な意義を再確認します。

場で「連絡会のネットワークを活かした生活困窮者支援ができないか」と、約1年をかけて議論しました。

そこで、平成26年度より、「困っている方をたらいまわしにせず、相談を受けた施設で、速やかに丁寧な支援をする」ための仕組みとして、緊急時に食糧等を支援できる事業に新たに取組むことに。既存の制度対応がなじまない場合には、現場の判断を優先し、連絡会として集めた事業費を原資に食材購入の費用を援助するなど、丁寧な相談支援を行うことを目指しています。

柏原市の連絡会として取り組み始めたこの事業は、施設種別を超えた連携のもと、地域に根差した相談体制の充実という点で貴重な実践と言えます。

## 力をあわせて 地域福祉を推進

今、制度外のニーズ対応など社会福祉法人の更なる公益的な取り組みの推進が期待されています。一方、地域では、認知症高齢者への対応や生活困窮者支援、防災や災害時支援など、地

## つながる ひろがる 地域福祉を 支える「ひと」

このコーナーでは、地域福祉の実践を支える「ひと」に話を伺い、「地域での出会い(きっかけ)」や「活動のひろがり」を紹介いたします。



大西 哲夫さん  
柏原市社協  
福祉推進課長

クの「核」となるべき機関であり、社会福祉法人による連絡会においては、その役割を担うべきだと考えていましたので、担当させていただきました。

## 設立はスムーズに運びましたか？

伊山 他の法人からはすぐに賛同が得られました。過去に連絡会の立ちあげを準備したことがあり、その下地があったことと、高齢・障がい・児童養護・保育の4種別を代表した発起人会を作り、そこからつながりのある法人へ声をかけていただいたことで、早期に設立が実現しました。

## 実務担当者会議が活発だとお聞きしていますが、その秘訣は何ですか？

大西 会議のまとめ役である横山さん(南河学園 指導員)のリーダーシップと、メンバーの横のつながりを意識した姿勢です。会議の会場を固定化せず、施設見学とセットで実施したり、グループワークを行ったりと、連携を深めようと工夫を凝



真野 和史さん  
柏原市社協  
福祉推進課  
地域福祉係長

らしています。協働作業を通じて、施設間の交流がより深まっています。

## 生活困窮者にかかる相談現場では、どのようなことがありましたか？

真野 本日に切羽詰った、明日の生活に困っている方と直面しています。既存の制度では援助のすべがなく、心苦しいし、ほっておけない気持ちになりました。一時的に緊急支援が可能なら社会資源の必要性を痛感しました。

大西 そのような現場の声を受け、社協として善意銀行や共同募金などを活用した事業展開も考えましたが、「生活困窮者の問題は地域の課題だ」という連絡会の意向を受け、今回の食材購入をサポートする事業に取り組みることになりました。

## 事業の立ちあげも、連絡会の設立と同様にスムーズに進みましたか？

伊山 いいえ、この事業については、実務担当者に対し、慎重にかつ十分議論をして進めるよ

うに指示しました。具体的な相談場面を想定し、規約づくりや運用方法など、合意を得るために苦労をかけたと思います。

## 事業の運用面で大事にするポイントは？

大西 相談者が複数の施設へ相談に行った場合、2重支給の可能性があることや、支給決定は会長決裁が必要ではないかなど、福祉現場を知る立場から様々な意見が出ました。しかし、「人を信頼することが福祉の原点だ」と合意ができ、緊急に対応が可能な仕組みが整いました。

伊山 実際、事業を運用する中で、様々な課題が出てくると思いますが、都度、議論して継続的な改善を図っていきます。

## 今後の展望をお聞かせください。

大西 この事業をきっかけに、連絡会の関係がより密になり、地域貢献という同じ目標に向かう体制が強化されました。これからも、連絡会の核として役割を果たしたいと考えています。

伊山 次は「防災」をテーマにします。まずは現状を把握し、施設としてできることを考えるために、行政との連携を深めていきます。今後も地域貢献活動に努めていく所存です。

域住民だけでは対応できない課題が山積しています。だからこそ、市町村域で福祉施設と地域関係者が顔の見える関係をつくり、力をあわせてともに地域福祉を推進していくことが求められています。

## 各地に広がる 連絡会

阪南市社協では、4月30日に社会福祉施設連絡会が設立されました。第2期阪南市地域福祉推進計画に公民協働で地域課題を共有、解決に取り組む方針が明記されており、この連絡会を通じて、福祉施設と社協、地域、行政がスクラムを組んだ地域福祉の推進を目指しています。

泉南市社協では、6月12日に福祉施設連絡会の設立総会が開催されました。総会で竹中勇人泉南市長より福祉ネットワークの充実への期待を込めた挨拶があり、「泉南市に任んでよかった」と市民が思える取り組みを連絡会で行いたい」と参加した9施設で確認しあいました。



府社協、市町村社協の共催で、福祉施設やボランティアグループ、NPO等の協力により、「ボランティア体験プログラム」が始まりました。今年も、ボランティア活動を身近に楽しく体験してもらう、約700件の個性豊かなプログラムが用意されています。「ボランティアは初めて」という方はもちろん、親子や友だちグループでの参加も大歓迎です。この夏、体験を通してたくさんの人と出会い、新しい経験を積み、自分の世界を広げてみませんか？ たくさんの方のご参加をお待ちしています！

## 楽しいがいっぱい！ 夏のボランティア体験 プログラムがスタート

受付期間：9月19日(金)まで  
申込み先：各市町村社協の窓口  
プログラムの検索はこちら：  
<http://www.osaka-summerv.jp/>

